

## 公明

活動の期間	調査研究、研修、 要望・陳情の場所	活動の種類	報告書のページ
令和5年10月3日	石川県かほく市	調査研究	P 2
令和5年11月7日	オンライン参加	研修	P 4
令和6年3月1日から 令和6年3月2日まで	石川県金沢市	研修	P 6
令和6年3月29日	石川県金沢市	研修	P 7

2023年10月4日

野々市市議会議長 様

(報告者)

会派名〔又は〕 公明  
 代表者〔議員名〕 木谷 直子



## 政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	2023年10月3日（火）
視察の場所	かほく市あそびの森かほつくる （かほく市谷ワ108）
参加者氏名	木谷直子
目的 （調査・視察事項）	令和3年4月に開園し、今年来館20万人を突破したかほく市「あそびの森かほつくる」を視察し、当該施設の建設動機・目的、市役所各課からの連携した施設検討方法、事業費決定のプロセス、施設の運営管理団体が決まるまでの経緯・利点・管理の成果などを伺う。
調査・視察概要	<p>こども屋内運動施設「あそびの森かほつくる」は、旧金津体育館の改修予定時期と、第2期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査での要望などが重って「天候を気にせず思いっきり遊べる施設」が建設されることになった。延床面積1,694㎡、改修費約6億2,400万円（うち遊具1億1,000万円）、改修費のうち地方創生拠点整備交付金1億6,250万円。公共施設等適正管理推進事業債1億9,940万円などの補助事業を活用。指定管理者はスポーツ施設運営に実績のある特定非営利活動法人クラブパレット。</p> <p>参考としたい点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>市役所内で施設に携わる各課、都市建設課（ハード面）、子育て家庭課（ソフト面）、企画振興課（PFI導入の検討）、生涯学習課（スポーツ施設）による検討会を開き、各課職員の意見や提案が生かされている。男性がおむつ替えをしやすい部屋は検討会で出たアイデアで作られました。</li> <li>施設建設中の令和2年4月に指定管理者を公募し、施設の運営者の意見・提案などを取り入れたこと。提案で旧体育館施設の正面玄関前に、玄関、事務所、光のテラスなどを追加で発注し、リニューアルを前面に打ち出した。施設のイメージアップをはか</li> </ol>

	<p>り、入場者数増加にも貢献した。</p> <p>3) 子どもたちの関心を集める工夫として、遊具選定はプロポーザル方式(5社)で行われ、子ども園関係者などを含めて選定にあたった。命名も市内小学生児童からの公募で行った。</p> <p>4) お子さんに加え、保護者がやすらぐ空間をコンセプトに保護者のニーズを取り込んだ「光のテラス」「図書コーナー」「授乳室」を設置した。</p> <p>5) 建設後は、指定管理者らが「運動教室」「工作教室」「夏休み宿泊体験」「読み聞かせ」親子参加型事業などで、保護者らの集いやすい環境・企画を継続して提供している。</p>
備 考	

2023年 11月 8日

野々市市議会議長 様

(報告者)

会派名 (又は) 公明  
 代表者 (議員名) 木谷 直子



## 政務活動報告書

下記のとおり政務活動 (調査研究、研修、要望・陳情) を実施したので、報告します。

期 間	2023年 11月 7日
視察、研修、要望・陳情の場所	Zoom ウェビナーによるオンライン参加 (議国会派室)
参加者氏名	木谷直子
目 的 (調査・視察事項)	高齢者医療制度の現状と課題、地域共生社会とそれを支える人材、リエイブルメントサービスで地域を活性化する政策を推進などについて学ぶ。
調査・視察概要	<p>医療制度の現状として、一人の生涯医療費が約 2600 万円で、そのうち 2200 万円ほど (85%) が医療保険で支払われており、高齢化により医療費が増加するなかでも制度を守っていくことが重要である。そのために、年齢によらず負担能力に応じて保険料を負担してもらう方向へ制度が改正されている。そして、これからは健康寿命を延ばすためにも、保健事業と介護予防の一体的実施を推進することが大切となる。</p> <p>地域共生社会を目指すには、孤立させないことが最も大切であり、個々に応じた具体的な課題解決と繋がり続けることの 2 つのアプローチで支援していく必要がある。高齢者だけではなく、引きこもりへの自立支援や、それにつながる不登校の問題も、早期に把握し対応することが重要と感じた。また、生活支援コーディネーターに活躍していただくことで、店舗や企業などとも繋がり幅広い支援活動が推進できた事例が紹介された。</p> <p>リエイブルメントサービスとは、元の生活を取り戻すことをいう。介護制度で要支援の認定を受けた方に、その後の期間限定 (3 ~ 6 か</p>

	<p>月)の集中的介入をすることにより、身体機能の回復だけでなく社会生活の回復を目指す防府市の取り組みは素晴らしいと思った。実際にサービスを受けた方の60~70%は元の生活に戻れており、R1年とR4年では、要支援者に対する介護サービス料が1億円削減できている。</p> <p>要支援になる一番の原因は、廃用症候群(過度に安静にすることや活動性が低下したことにより身体に生じた様々な状態)である。セルフマネジメント能力を高め、介護サービスを利用する週2時間より残りの6日と22時間へのアプローチと、更に場所・人に繋げることで、活動的な生活の継続を目指している。皆が年配者への今までの常識をくつがえし、要支援者は元の生活に戻れるとの認識で取り組みたい内容であった。</p>
備 考	

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。

2024年3月5日

野々市市議会議長 様

(報告者)

会派名〔又は〕公明  
 代表者〔議員名〕木谷直子



## 政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、**研修**、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	2024年3月1日から 2024年3月2日まで
視察、研修、要望・陳情の場所	TKP ガーデンシティ PREMIUM 金沢駅西口 石川県金沢市広岡 2-13-33
参加者氏名	木谷直子
目 的 (調査・視察事項)	質問の基礎基本や、良い質問のポイント、注意点などを研修することにより、質問力アップを図るため
調査・視察概要	<p>一般質問（政策提案型）の基本</p> <p>① 現場調査・データ整理 住民との対話、根本原因を究明、客観的データの調査と提示</p> <p>② あるべき姿の設定 現状とのギャップ＝問題 既存の制度にとらわれず、根拠ある明確な理想の姿を示す</p> <p>③ 課題の設定 ギャップを解消するために、何をするのが効果的かを考える</p> <p>④ 制度・事業の精査と仮説（政策・施策）の選択 既存制度・事業を学習し、具体的な解決策（改善点）を選択</p> <p>⑤ 仮説の検証 提案が成果を生む（ギャップを解消する）ことを証明する</p> <p>良い質問に必須の3条件である、1. 現状認識が正確で共有できる 2. 課題認識が時宜を得て共感できる 3. 仮説（提案）が効果を生む検証が十分されている などを意識し、より良い質問ができるよう努力していきたい。</p>
備 考	

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。

2024年4月1日

野々市市議会議長 様

(報告者)

会派名〔又は〕公明  
代表者〔議員名〕木谷 直子



## 政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期 間	2024年3月29日（金）
視察、研修、要望・陳情の場所	IT ビジネスプラザ武蔵 研修室1 金沢市武蔵町14-31
参加者氏名	木谷 直子
目 的 (調査・視察事項)	自治体の防災・減災マネジメント（基礎編）および 実例からみる防災対策における議会・議員の役割（実践編） 自治体の防災対策や災害時の議会、議員の役割等を学び、 今後の災害対策に活かすため
調査・視察概要	<p>現在は高齢化が進み、要支援者が増加している反面、地域での人のつながりが希薄になっている。実際に災害時は、家族や近所の人声掛けにより避難できることが多いため、平時からのつながりをつくると共に、地区防災計画・個別避難計画をしっかりと作成することが重要である。</p> <p>またその際に、福祉避難所の在り方が問われてくる。今までの防災計画にもっと福祉の視点を取り入れ、福祉施設のBCP（事業継続計画）を考えた上で、福祉避難所としての支援体制を整え、地域と連携し、要支援者ごとに避難先を明確にしておくことが必要だと思う。</p> <p>大丈夫だろうという「正常化の偏見」を破り、危機管理能力を高めることが大切。災害時の議会・議員の使命は、住民の命と尊厳を守ること。そのために、市当局と協働し県国等や市民に働きかけること、そして、災害時でも地方自治と民主主義を守ることのバランスをいかにとるかが重要である。</p>
備 考	

※記入欄が不足する場合は、欄を広げる等適宜調整してください。